

全国大学ゴルフ指導者研究 第 15 号

(2025 年 11 月)

ゴルフ創始期のスコットランド貴族のプレーぶり



全国大学ゴルフ指導者研究会

The Japan Society of Collegiate Golf Teaching Association

〈JSCGT〉

全国大学ゴルフ指導者研究 第 15 号

目 次

I. 巻頭言	矢崎 弥 会 長	・・・1
II. ゴルフ指導者研究雑考		・・・2
ゴルフ好きな人の作り方	日本女子大学	佐古 隆之
ゴルフと社会を繋げ、人財（材）を育成する 2 つの方法	至学館大学	足立 美都樹
初心者のゴルフ授業におけるクラブ選択とプレー進行の関連性		：男女学生の比較分析
	日本大学	沖 和磨
	芝浦工業大学	前田 総太郎
* 本章企画について		
III. 令和 6 年度全国大学ゴルフ指導者研究会		・・・21
第 1 回東海北陸甲信越支部研修会報告		
1. 開催概要		
2. 総括		
第 29 回研修会報告		
1. 開催概要		
2. 研修内容		
IV. 全国大学ゴルフ指導者研究会総会資料		・・・27
2024 年度（令和 6 年度）事業報告		
2024 年度（令和 6 年度）決算書		
2024 年度（令和 5 年度）全国大学ゴルフ指導者研究会第 28 回研修会収支報告		
2025 年度（令和 7 年度）予算（案）		
V. 会則・会員名簿		・・・35

I. 巻頭言

全国大学ゴルフ指導者研究会 会 長 矢崎 弥

全国大学ゴルフ指導者研究会第15号が刊行される運びとなりました。刊行までご尽力を頂いた研究誌作成委員の先生をはじめ、本会の理事の皆様、ご寄稿いただいた皆様には心から感謝申し上げます。

さて、本年のゴルフ界は1月ハワイでの松山選手優勝で幕を開けると、日本女子選手のアメリカツアーでの毎週の活躍があり、非常に盛り上がっています。男子選手も数名がアメリカツアーに参戦し、アメリカ下部ツアー、ヨーロッパツアー経由での参戦を目指す若手選手も増えるなど、今後に大きな期待を持たせてくれています。日本国内でも若手選手の活躍が増えており、また、アマチュア・ジュニア選手の中にも国際的レベルと期待を抱かせる選手が出てきています。ゴルフ観戦好きの私としては、幾つかの動画配信に入会し、週末は生放送に興奮し、寝不足になるという不健康な生活を送るようになっていきます。

競技ゴルフの活況に引きずられるように、一般ゴルファーの増加があれば良いのですが、ゴルフ人口の半数が60歳以上である今日、なかなか状況は改善されていないようです。都市部では室内ゴルフ練習場が増え、若者の利用が増大しているとの報告はあるものの、まだまだ小規模の動きのようです。ゴルフ人口が最大であった時代は、社会人になると、会社での先輩後輩関係を背景にほぼ強制的にゴルフを始めさせられる人が大半でありましたが、今日では同僚とゴルフを始める機会は稀となってしまいました。

それ故、大学でのゴルフ授業や実習がゴルフ人口を増やす大切な機会となっていると思いますし、授業・実習で学生たちにゴルフの技術、文化を伝え、楽しんでもらう我々の役割は重要となっています。本研究会は、それらを研鑽する組織でありますし、本研究会誌はその報告・情報発信の場であります。

年々多忙となる大学機関ですが、関係する諸先生にご協力いただき、本研究会誌がゴルフに生涯関わっていく人材育成組織の重要拠点の一つとならんことを願って、巻頭言とさせていただきます。

II. ゴルフ指導者研究雑考

ゴルフ好きな人の作り方

日本女子大学 佐古 隆之

大学でゴルフ授業を担当する教員にとって、授業をきっかけにゴルフを好きになり、在学中あるいは卒業後に趣味としてゴルフを楽しんでくれるようになることは、これ以上の喜びはない。そのためには、特に初心者にとっては、初めてのゴルフ体験であるゴルフ授業でゴルフの楽しさを実感してもらうことが不可欠である。そこで、私自身がゴルフを最大の趣味として楽しむようになった経験を振り返りながら、「ゴルフ好きな人の作り方」について考えてみたい。

1) 初心から初級（カナダ編）

私自身のこれまでのゴルフ技術習得の方法について振り返ってみる。ゴルフを始めたのは、大学院修了後に4年間過ごしたカナダであった。ルームメイトの大学生がインターンをしていた日本企業の社員の方と、バンクーバー周辺のパブリックコースで月2回ほどラウンドするようになった。スクール等で習ったことがなく完全に自己流で、最低限の技術であるクラブの握り方や基本的なスイング理論は書籍、特に高橋勝成氏の著書から学んだ。自宅の近くにラウンドをしなくても自由に使用できるアプローチ練習場を備えたコースがあり、書籍で推奨されていた7番アイアンによるランニングアプローチを練習した。カナダのコースは1グリーンで大きいので、7Iを用いたアプローチは初心者ゴルファーにとってたまたまではあるが最適な方法であったと考えられる。当時はウェッジでスピンをかける知識も技術を知らず、ほぼ全てを7Iによるランニングアプローチで対応していた。また、OBが少なく、ティーショットを大きく曲げても隣のホールから打てるコースがほとんどであったため、飛距離を追求する若年初心者にとって理想的な環境であった。

2) 初級から中級（日本編）

帰国後は、研究活動の多忙さや経済的制約からしばらくゴルフを中断していたが、専任教員就任後、ある大学のゴルフ集中授業のお手伝いに呼んでいただいたことを契機に、ゴルフを再開した。ゴルフ雑誌を参考に、当時最も人気が高かったゼクシオのアイアンセットをディスカウントストアで購入し、スイング理論もゴルフ雑誌の記事から学んだ。その時にアイアンは「ボールの先でターフを取るダウンプロー」、ウッドは「横から払うように打つ」ことを始めて知った。雑誌では陳清波プロのフォームを理想としてしたが、全くもってできるようなにはならなかった。技術的に未熟で練習もラウンド前にしかやらない状況であったため、コースではOBや大ダフリなどの大きなミス回避が最優先課題であり、

捕まりが良いと評判のテーラーメイドのバーナーシリーズを使用していたが、回転数が多く飛距離は伸びなかったものの、評判どおりスライスはほぼ出なかった。パターは同じくテーラーメイドのスパイダーを用いてショートパットの安定性を重視した。フェアウェイウッドは不得意であったため、打ちやすさを優先してキャスコのハイブリッド（パワートルネードシリーズ）を使用していた。練習はラウンド前に限られていたが、現在のようなインターネット動画が存在していなかったために、依然として雑誌の記事からスイング理論についてアップデートしていた。カナダで修得したはずの 7I でのランニングアプローチの技術は、日本の小さな砲台グリーンではほとんど役に立たず、グリーン周りは PW でのピッチ＆ランの修得に努めた。その後しばらくして、米国のティーチングプロが無料レッスン動画を公開し始めたことで、情報源は雑誌からインターネットへ移行した。日本でのラウンド経験を積むようになり、グリーン周りはリーディングエッジの突き刺さりにくいようにバウンスの大きな 56 度か 50 度のウェッジでのアプローチで寄せることが多くなった。ランニングアプローチもできるようになった今でも、キャリーの割合が大きいアプローチの方がカップへのイメージを描きやすいことから、7I でのアプローチは全くやらなくなった。

3) 中級からの伸び悩み（ホームコース編）

コロナ禍になり始めた頃にあるコースの会員になり、ほぼ毎回そのコースでプレーするようになった。以前は同じコースでばかりプレーするのは飽きがきてつまらないと考えていたが、幸いにそのコースのフェアウェイはうねっており、大きくこれまたうねっている 1 グリーンのおかげで、毎回打ちのめされながらも飽きずにラウンドすることができている。逆に同じコースでプレーすることで、距離や攻め方を把握しているのでショットの精度をあげる練習ができるというメリットを感じている。コロナ禍を境に、日本でもラウンド動画を含む多様な配信が増え、ゴルフ技術の向上に限らず、エンターテインメント番組の一つとしても楽しめるようになってきた。コンテンツとしては「飛距離を伸ばす」ことがやはり多いが、子供、高齢者、女性などの年代別や性別毎、初心者のための「コースデビューの方法」や「80 切り」などのレベル別の動画もあり、以前のようなゴルフ雑誌の需要は明らかに低くなっていると思われる。

4) エージシュートを目指して

55 歳以降、明らかにドライバー飛距離が低下してきた。これは主に加齢に伴う速筋線維の萎縮と柔軟性の低下によるスイングスピードの低下が原因と考えられる。この傾向は今後も進行する可能性が高いことから、筋パワーの低下の改善を目指して筋力トレーニングを開始し、大腿・臀部・体幹を中心に鍛え始めた。特にドライバーの飛距離との関連が報告され、加齢による衰えが顕著となるハムストリングスを重点的に強化する計画である。他のスポーツと異なりゴルフは、加齢の影響を技術や道具で補完できるスポーツである。

飛距離は落ちても、戦略や技術によって若年時以上のスコアを実現できることが、ゴルフの大きな魅力である。また複数のティーグラウンド設定により、年齢や性別を超えて一緒にプレーすることが可能な究極の生涯スポーツである。今後は加齢による身体能力の衰えを最小限にしつつ、平均スコアを少しでも改善して、最終的には 80 代でのエージシュート達成を目指したいと考えている。

5) 技術レベル別のマネージメント

<初心者→初級者> 100 切り

1) ティーショットでの OB をできるだけ減らす。大きく曲がる場合にはその癖を相殺してくれるドライバーやシャフトを使用する。2) ファアウェイからのショットはトップでもよいのでできるだけグリーンに近づける。ユーティリティは強い味方となる。3) グリーン周りのアプローチショットはとにかくグリーンにのせる。チョロやトップができにくいロフトのあるクラブで転がして寄せる

<初級者→中級者> 平均 90 前後

1) ティーショットで OB を打たない。2 打目が打てるのであればよいと考えてむやみに飛ばそうとしない。2) 基本的にはボギーを狙う。全てボギーであがれば 90 になり、1 つでもパーができれば 80 台であがれる。OB や 1 ペナを打った場合には、ダブルボギーであがることに切り替える。3) ボギーオンできるようにバンカーやハザードを避けることに徹する。

<中級者> 平均 85 前後

1) とにかくダブルボギーを打たない。無理をしてパーオンを狙わずにボギーオンでも 2 パットで入れられる所に寄せる。2) ショートホールではカップの近くを狙うのではなく、アプローチで寄せやすい所を狙う。グリーンに届かないクラブを使用することもある。3) ロングパットの距離感、ショートパットの方向性の精度を高める。4) ハーフ 42 を狙う。

<中級者→上級者> 平均 80 前後（私自身未知の領域）

1) ハーフ 40 を切るために、ティーショットやアイアンショットの精度を高める必要がある。ボギーは避けられないので、バーディーを狙えるホールでは果敢に攻める。2) プロのように毎回再現性の高い良いスイングをすることは難しいので、スイングの再現性に悪影響の可能性のある要因をできるだけ避ける。打つ際に技術的な事をいろいろと考えることは、スイングのリズムや軌道に影響するので、構えたらすぐに打つことができるようになる。

至学館のゴルフ授業紹介

本学のゴルフ授業は、一昨年（2023 年）から始まりました。打撃練習場で半期約 15 回練習を行いその後愛知県の新南愛知カントリークラブで 9 ホールラウンドします。4 年次後期の授業で、1 クラス 20 名位で、2 クラス開講しています。

今回は、本学のゴルフ授業をメインでご担当いただいている足立先生（本学 OG）に寄稿を依頼し快諾いただきました。以下、寄稿文になります。

至学館大学 仲 立貴

ゴルフと社会を繋げ、人財（材）を育成する 2 つの方法

至学館大学 足立 美都樹

はじめに

私はゴルフを 16 歳から始めました。途中、子育てでの空白期間もありますが、30 年以上ゴルフに携わってきました。学生ゴルフ、トップアマ、プロキャディ、マネージャー。その時代ごとにゴルフとの関わり方が変化しました。ゴルフと深く関われば関わるほど、ゴルフに叩きのめされたり励まされたりしてきました。ゴルフの魅力とは反対に、人間の泥臭さも幾度か経験してきました。

ゴルフは人生の縮図といわれています。18 ホールのラウンド中にある喜怒哀楽、達成感、努力をしても報われない理不尽な事、幸不運、粘り強さ、忍耐強さなど、順風満帆にはいかない人生や仕事で直面すること全てが 1 ラウンドに凝縮されていると私の経験上思います。従いまして、ゴルフほど人財（材）が育つスポーツはないと確信しております。そこで、今回は「近年のゴルフ背景」「社会においての人材の把握・問題点」および実際に 1 至学館大学の非常勤講師でのゴルフ授業と、2 企業で新入社員向けに行った研修を通して得られた 2 つの成果をお伝えします。

近年のゴルフ背景

コロナ禍で様々な施設が利用制限下にあった。全てがリモート化、外食も困難、人と人が対面でリアルに話すことができなくなり、人と人のほとんどのコミュニケーションツールが不通となった。しかし、その制限の中でも唯一プレーできたスポーツがゴルフ。屋外

の広い敷地を利用して行うゴルフ場は、クローズされずプレーができた。制限の中、プレーできたゴルフは人と人が触れ合える貴重なコミュニケーションの場となった。

ゴルフ人口は団塊の世代が抜けてから一度は減少したものの、コロナ禍を経たここ数年は若者を中心に右肩上がりの増加傾向を示している。ゴルフ人口増加は良いことだが、その反面ルールやマナーが分からず我流のままプレーをしている若者も多くおり、ゴルフ場も既存のプレイヤーも迷惑を感じる機会が多くみられるようになった。伝統的にルールやマナー、品格を重んじるのがゴルフ、しかしゴルフ界ではその善し悪しが同時に起こっている。

社会においての人材の把握・問題点

現在の日本は少子高齢化で多くの会社が人材不足に陥っている。そのため働く世代の幅が広く、人材育成に頭を抱えている。新入社員の3分の1は3年以内に会社をやめるような離職率の高さで、会社に有能な人が定着しない。このように「人」に関しての問題が山積みである。いくら社を上げて人材育成にあたっても、成果が出るには時間も費用もかかり、またその効果も分かりづらい。この人材育成といった「人」の問題を解決するには、上司が部下を指導する従来の方法ではなく、上司部下関係なく社会に柔軟に対応できるよう、自分自身が学び続け、人間力というパフォーマンスを一人一人UPさせることで会社全体を底上げしていくしかない。

スポーツは個々の鍛錬があつてこそ、チームを優勝へと導くことができる。会社というチームを、強い組織に導くためにはスポーツ同様、個々が自身の成長にフォーカスしていくことが大切である。後世に「人」を残すという思いや役割を一人でも多くの人が自覚し担っていく必要がある。

【大学ゴルフ授業編】

1-① ゴルフオロジー®（ゴルフ+ソシオロジー / 社会学）

この授業は、2023年4月から母校至学館大学のカレントトピックス演習ゴルフにて4年生を対象に15コマ2単位で開始された。15コマの受講後、新南愛知カントリークラブ美浜コースにて9ホールのハーフラウンドを行う。毎年1クラス約15人～25人で、昨年までに80名の学生が受講しており、2025年度は約37名が受講予定である。私の事業の柱にもしている「教育とゴルフを結び付けて教える事」は私の生きるミッションでもある。社会に一番通じているゴルフというツールを使い、ゴルフと社会の共通点を見つけ教えることが一番だと考えていた。それがゴルフソシオロジー、ゴルフオロジーだ。もちろんスイングを教えることは必要だが、丸腰で社会に出ていく学生に1つでも武器を持たせるために、私にしかできないことを伝えたかった。恐らくこのような授業は他

にはない。

1-② 目的

ゴルフは老若男女を問わず楽しめるスポーツであり、ビジネスシーンで今なお多く使われている。授業では社会に出て活躍していく本学生に、すぐに活用できるようゴルフの特性を理解するとともに、基礎的なゴルフスイングに関する用語や技術的練習方法を学習する。さらに安全にラウンドするために基礎的ルールとマナーを学ぶ。これにより、生涯スポーツとして継続できる基礎的能力を身に付けさせることをねらいとする。(至学館大学シラバスより)

1-③ 目標

2人1組のチームで学び合いながら、他者と自己の理解を深めゴルフを通し人として成長できること具体的には以下を目標とする。①ゴルフの特性を理解し、生涯スポーツとしての有効性を説明できる。②基礎的なゴルフスイングについて理解し、実践できる。③コースをラウンドするために必要な基礎的ルール、マナーを理解し、説明できる。④チームで目標を設定し、学習した知識や技術を活用し安全で公正なラウンドができる力を身に付ける。

1-④ 授業内容(座学・練習場)

初回授業では「あなたはなぜゴルフをするのか?なぜゴルフを選んだのか?ゴルフをするとあなたは、どうなるのか?あなたにとってゴルフをするベネフィット何か?」といっ

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション(授業の進め方)
2	ゴルフ練習場① グリップ、ハーフスイング(9時→3時)
3	ゴルフ練習場② グリップ、ハーフスイング(9時→3時)
4	ゴルフ練習場③ フルスイング
5	ゴルフ練習場④ フルスイング
6	ゴルフ練習場⑤ アプローチショット
7	ゴルフ練習場⑥ アプローチショット
8	講義:ここまでの振り返りと後半に向けての目標設定/テスト
9	ゴルフ練習場⑦ ウッド・ユーティリティ
10	ゴルフ練習場⑧ ドライバー・ウッド・ユーティリティ
11	ゴルフ練習場⑨ ドライバー・ウッド・ユーティリティ
12	ゴルフ練習場⑩ コースを想定した練習(アプローチ)
13	ゴルフ練習場⑪ コースを想定した練習(ウッド・アイアン)
14	講義:コース授業について(日程、内容、組合せなど)/テスト
15	ゴルフ練習場⑫ コースを想定した練習(ウッド・アイアン・アプローチ/実技試験)
★	コース授業 新南愛知カントリークラブ美浜コース ハーフラウンド レポート有り

た問いのオリエンテーション座学から始まる。授業形式は3～4名のグループになり、あくまでも私はガイド役としファシリテーションし学生自身が思いを言語化していく。



15回の授業は以下の通りである（至学館大学シラバスより）。実技以外にも3回の座学と2回の筆記試験、ハーフラウンド後のレポート提出を行う。授業前には必ずゴルフオロジー講座を10分程度行う。「社会で起こりうる全ての問題の根源は、人間関係」という視点からゴルフオロジーを使い答えを導きだしていく。

現代を生き抜くためのヒントをゴルフオロジーを切り口に、日常や社会生活の中で活かしてもらう。ゴルフをすると同時に生きる目的と意味を根本から考えることができ、生涯スポーツとして継続してゴルフを楽しんでもらう。

1-⑤ 授業内容（ゴルフ場9ホール）

学生2～3名と教員（ゴルフ経験者）1名の計3～4名1組となり、ハーフラウンドを行う。事前に座学で最低限のルール、マナー、エチケットを学び、個人とチームの目標をシートに記入。当日のラウンド前に教員がガイド役となりシートを元にチームで目標を確認する。ラウンド後、チームで振り返りを行い、最後に全員集合をし、チーム毎に発表をする。

1 - ⑥ 授業後の学生レポート

一昨年から始まった非常勤講師。教師という仕事は初めてで、丸腰で社会に出ていく学生に、どうしたらゴルフロジックが上手く伝わるのだろうかという試行錯誤を繰り返しながら行ってきた。練習場での授業もコースでの授業も私一人の力ではここまではできなかっただろう。しかし沢山の教員の方や、ゴルフ部の先輩後輩に助けて頂きながらなんとか終わることが出来た。「やはり、一人の力なんて大したことない！チームなんだ！」と実感し、コースで授業を終えた時には自然と涙が溢れてきた。さらに、前期の授業が全て終了し、学生の最終レポートに目を通した時にも感動がよみがえった。授業を通して試行錯誤しながら伝えてきたことが、このレポートではっきりと示された。

以下、現在までの受講者 80 名のほんの一部だが、至学館大学 健康科学部 健康スポーツ科学科の学生によるレポートである（一部修正）。

○ゴルフの授業で 1 番自分が成長したと感じたことは、美都樹先生のゴルフロジックがとても勉強になりました。再現性や先読み力、社会性、主体性と自主性など色々と学んで感じだのは、人生とゴルフはとても似ていることを理解できた。「人間関係とゴルフは距離感が大事」と、ゴルフは人間性が出るスポーツであることを学ぶことができた。

そこでとても気を遣っていたことは、メンタリティの部分である。自分たちは、大樹（ゴルフ練習場）で打つだけ打っていたただの初心者なので、プロと比べると再現性はとても低い。再現性が低いことから、自分のようにショットの調子が良い時と悪い時の振れ幅がすごい時に、メンタリティの部分で試されると考えていた。その部分では、私のメンタルは安定していた。調子が悪い時こそ、挑戦したくなる気持ちになっていたのも、悪い状況を楽しんで打っていた。ハーフラウンドを行なって自分の課題が見つかった。ショットの再現性を高くすること、真っ直ぐ狙ったところに飛ばすようにすること、と明確になった。今回のコースを回り、ゴルフにハマったので、これを機に友人と一緒に打ちっぱなしやコースで技術を磨き、次に美都樹先生にお会いしたときに成長している姿を見せたいと思います。前期の短い間、私にゴルフの素晴らしさを教えてくださり、ありがとうございました。（4 年 K.K）

○今回、先生のゴルフの授業を通して一番学んだゴルフの技術も勿論ですが、一番は人生において大切なゴルフロジックです。これから社会に出た時に役立つルールやマナー、そして距離感や先読み能力など数え切れないくらい沢山のことを学ばせていただきました。そしてゴルフを通じて人との繋がりが出来てくることが、これが一番今回の授業で経験しました。褒めあったり、助け合ったり、励まし合うことで仲間も増えていき、言葉では表し

切れないくらいの経験が出来ました。技術では構えや打ち方がそれぞれあり、綺麗に打てた時、気持ちよく飛んだ時など面白いくらい自分の技術を見つめ直すことができ、ゴルフってこんなにも面白いスポーツだと思いました。残りわずかな大学生活にゴルフの授業に出会えたことがとても良かったです。(4年 K.F)

○私はこのゴルフの授業を通して、マナーやエチケット、気遣いなど、人と人がコミュニケーションを取る時に大切な事が全部詰まっている物だと感じました。よく接待でゴルフが使われるという事がよくわかりました。コースを回る時に一緒に回りながら次に何番のクラブが必要なのか気遣って持っていったり、仲間が上手く出来なかった時に、励ましの言葉や、雰囲気が悪くならないように盛り上げたりなど、ゴルフには楽しむ以外にも人として大切な事がたくさんあるのだと感じました。私は、これからもっとゴルフを通してこのような気遣いを学んで見たいと思いました。このようなゴルフに出会えるきっかけをもらったこの講義は最高に良い時間になりました。(4年 S.K)

○私は、ゴルフの授業を 7,800 円払ってゴルフやるだけで単位をもらえるという気持ちで履修しました。これまでの人生でゴルフクラブを握った経験もなく、打ちっぱなしすらも行ったことがありませんでした。最初の講義で先生と出会ったときは、こんなにも自分に影響を与える出会いだとは思いませんでした。初心者の自分に熱心にスイングを教えていただいたり、ゴルフの授業の枠を超えて今後の私の人生に必要なことを教えていただいたりして、感謝の気持ちでいっぱいです。先生から学んだゴルフロジーはこれから生きていく中で今よりもっと深く理解できるようになると信じています。先生とゴルフから学んだことを生かすも殺すも自分次第、これからも出会いやご縁を大切に生きていきたいと思います。ゴルフって最高ううう！！(4年 K.K)

○まずはこれからもゴルフを続けて行きたいと思ったことです。最初は、クラブの握り方、打ち方何から何までわかりませんでしたが、美都樹先生が1から全てを教えてくださいました。最初はなかなか上手くいかないものの先生のアドバイスで徐々に上手くなっていきとても達成感が生まれました。美都樹先生には、ゴルフの技術だけではなく人間性、人間力についても教えていただきました。社会で通用する人になって欲しいから教えてくれたのだと思います。大学生は基本遊んでばかりで、人間性であったり人間力が少し疎かになってしまいう期間だと思います。正直自分もそうでした。しかし、そんな人間性や人間力が大切だと改めて感じてゴルフの授業を受けてからものすごく良くなったと自分では思います。ゴルフはとても楽しかったです。しかしそれ以上に人間力、人間性を改めて大切だと感じさせてくれたとても良い授業でした。(4年 A.H)

○私がカレントトピックスの授業で感じたことは、この授業で学んだことは今後、どの場面でも生かすことができる。つまり社会に出るにおいてゴルフというのは一番の社会勉強になるということである。この授業で学んだゴルフロジやマナーやエチケットは、来年から社会人となる私にとって非常に有意義な時間となった。営業職につく私にとってゴルフというのはコミュニケーションをとるために必要な手段の一つとなってくるだろう。そのような機会を逃すことのないように、ゴルフロジ、マナー、エチケットを理解した上での失礼のないコミュニケーションを交わしていきたいと思う。また、ゴルフのホールを回ることの楽しさも理解できて最高だった。(4年 H.H)

○ゴルフの授業をうけて感じたことはゴルフが好きになったことは当然ですが、人生の大切なことを学びました。現代人間論で足立先生に出会って話しかけた時には先生の授業を受けることができる機会がくるなど思ってもみなかったし、本当にいい経験ができたと思います。もし今回ゴルフを先生から学ばなかったら私はゴルフや人生において大切なことを知らずにいたと思います。ゴルフロジはゴルフとともに人生を豊かにするものであふれていると感じています。ゴルフにも人生ではじめて挑戦し、打ちっ放しでは少しうまく打てることができて実際にハーフラウンドをしてみて場面ごとに考えてプレーすることがいかに難しいかを痛感しました。うまく打てたとしても数え切れるくらいしかなかったしもっと上手になりたいと強く感じました。15回の授業を通じて私の人生がより豊かになったし、もっといいものにするためにゴルフロジを大切にしたいです。またいつか足立先生とゴルフができることを願っています！ありがとうございました！！(4年 K.R)

○やはりゴルフと人生は同じだとすごく感じた。この先ゴルフは社会で生きていく上で人間関係を良くするために必ず必要であると感じた。特にゴルフロジはすごく心に響いたものがほとんどで最初は「なんだよそれ、練習させてくれよ」と思っていた。しかし、話を聴くにつれて毎回の授業でゴルフロジを聴くことがすごく楽しみになっていた。人生の教訓として大切にしたいとすごく感じた。ありがとうございました。(4年 K.K)

○ゴルフの技術より、人生の技術を身に付けられた、とてもためになる授業でした。ゴルフロジはゴルフにも社会でも通用することばかりで、卒業後でも何回も復習しようと思いました。また、高校の授業でゴルフがあるなら、絶対にゴルフロジを取り入れようと思いました。ゴルフを通して「人との繋がり」を一番感じました。そして、人とつながってからの距離感も大切だなと思いました。しかし、そこでは自身を出さないといけなこともわかりましたが、自身を出しすぎもダメだなと思いました。様々なことを学べた

大学で一番いい授業でした。本当にありがとうございました。(4年 M.S)

○まずは、ゴルフというスポーツに関わることが出来てとても良かったと感じています。とても楽しむことが出来たし、コミュニケーション能力もつくと改めて感じました。ゴルフでコースを回って思ったことは、今までは個人スポーツと思っていました。しかし、アドバイスし合うことや先読み力、相手の気持ちを考えるという点が大きくチームスポーツでもあると感じました。このような点からゴルフというスポーツに関わることが出来て良かったです。この授業はゴルフオロジーでもあります。大学の授業の中で一番社会に通用する多くの事が学べたと思っております。みとき先生には、とても感謝しています。社会人になったらもっとうまくって一緒に回れる日が来るといいなと思っています。ありがとうございました。(4年 Y.I)

○ゴルフの授業を通して、技術的な面はもちろんですが、社会に出た時に役立つことや考え方を学ぶことができました。どの仕事に就いてもゴルフオロジーは役立つと思いましたが、私が四月から就く教員と仕事では特に大切になってくるものばかりだと思いました。どれも大切な力で一番をつけることはとても難しいのですが、私が一番大切にしていきたいことは、コミュニケーション力です。教員という仕事に就く以上、コミュニケーションを取ることは欠かせないものです。生徒、保護者、一緒に働く教員の方々というように普段からたくさんの人とのコミュニケーションをとる機会があります。教員は信頼関係をつくることが何よりも大切であると考えています。それだけにとどまるのではなく、他のゴルフオロジーもしっかり意識して、出立先生なら安心できる。と思ってもらえるように四月から頑張っていきたいです。社会に出て必要となる資質について学ぶことができたゴルフの授業を履修して本当に良かったと心の底から感じています。正直この授業を履修しなかった人は損してるなって思うほど自分のためになる素晴らしい授業でした。みときさんのおかげで、ゴルフも楽しめたし、一社会人としての自覚も持てたし、どのような人が求められるのかを知ることができました。本当に楽しくて有意義な時間をありがとうございました！ 15回と短い時間でしたがとても楽しかったです。(4年 D.F)

2023年12月12日号 週刊ゴルフダイジェスト掲載

記事はQRコードよりお読み頂けます。



【社会人編】

2 - ① 人材育成×ゴルフ キャディから学ぶチームビルディング

この研修内容は、学生時代にアルバイトとして行っていたハウスキャディ、プロキャディ、アメリカツアー帯同といった長年の現場経験から、「キャディの仕事は一般企業でも人材育成に役立つ」と考え、2016年に開催された第25回九州ゴルフ学会大会にて発表・提案したものである。そして、この提案は2021年に全国初として、企業×プロキャディ×ゴルフ場×組織作りの専門家の4者のコラボ企画として実現した。（※企業はゴルフ関連企業ではない）

2 - ② 目的

上司やお客様に気持ちよく仕事をして頂くためにどうすべきかを考え、動けるようになる。チームで成果をあげる視点を持つ。

2 - ③ 得られる学び

- ・思考力 ・観察力 ・実行力 ・先読み力 ・コミュニケーション力 ・柔軟性
- ・突発対応力 ・時間管理能力 ・目標達成力 ・エチケットとマナー ・お客様目線
- ・関係構築力 ・非認知能力 ・レジリエンス など

上記の力がある人材は会社として最も欲しい。だが、ここを育て教えていく時間もなければ術もない。キャディ業務にはこれが凝縮されている。

2 - ④ 内容と方法

新入社員はキャディ役となり、上司（プレイヤー / お客様）に喜んでもらえるように考え、行動する。まずは最低限のゴルフルールとエチケット、マナー、キャディとしての役割を事前に渡した動画にて学習してきてもらう。当日、ラウンド前に1時間のオリエンテーションを行う。チームに分かれ、キャディの役割を確認し、個人の目標とチームとしての目的目標を決める。自分に何ができるか？どう行動したらいいか？どう声掛けしたらいいか？自分の仕事を最大限に発揮するにはどうしたらいいか？を考える。

新入社員キャディ2人、上司2人を1組（ワンチーム）とし、サポートでプロキャディ1人、組織作りの専門家1人を入れ9ホールまわる。ラウンド中は主にプロキャディが新入社員をアシストしながら目標に向かわせる。

2 - ⑤ ハーフラウンド研修後

組織作りの専門家によりチームビルディングの3要素を取り入れ、振り返りを座学研修にて行った。個人目標、チーム目標は達成できたか？また、それは会社で活用できるか？



と自分事としてイメージできるかと、振り返りシートを活用し落とし込んでいった。新入社員たちはナイスショット、楽しい雰囲気、いいスコアなど人によって目標が違うことに気づいた。コースに出ると、新入社員たちの目がいっそう輝き始めたのが分かった。会社の建物の中にいる時とは圧倒的違う、広大な敷地にあるコースでの研修は社員たちの心が無意識に開放していると感じた。9 ホール続けるうち、新入社員たちは気をきかせた動きや、声かけでの雰囲気づくりや先読みなど、そのまま会社で生かせる”スキル”を発揮した。組ごとに信頼関係ができたことで、新入社員たちは、ここが安心安全の場とわかり社員は自分の強みを存分に発揮することができた。

特に印象的だった振り返りは上司であった。普段の会社の動きとは全く違う動きをしていた社員がいたからだ。こんな側面は初めて見た！と驚き、この研修の効果をすぐに実感していた。これも、ゴルフ場という環境の後押しもあり、その社員の強みを発揮できたのではないと思う。この研修を一過性のものにせず、ゴルフスイング同様、再現性を高めるには普段からの意識と習慣が必要となってくる。

最後に、企業、ゴルフ場、プロキャディ、組織づくりの専門家の4者コラボ研修により、1) 企業には、創造的な思考と行動を促す新しい企業研修スタイルを、2) ゴルフ場には、新たな利用価値提供を、3) プロキャディにはセカンドキャリア提供を生み出す。さらに、地元企業と地元ゴルフ場を利用することにより、ゴルフ資産を活用した地域創成に繋げることができる。このように、ゴルフ産業への活性化の一助になることが関わった人たちの声からわかった。

おわりに

私は野球の故野村克也監督の本の愛読者です。その中の一冊に「小事が大事をうむ」というタイトルの本があります。この言葉のように、ゴルフにしても人を育成するにしても、何事もコツコツと日々の積み重ねの延長線上に結果があります。特にゴルフは結果が思うように出にくいスポーツであり、上達には時間がかかります。私もゴルフには幾度となく打ちのめされてきました。その度自分と向き合うことになり、失敗や辛い思いを沢山してきました。でも、今ゴルフを通して多くの方とご縁を頂き、大好きなゴルフに関わる仕事ができるということがとても幸せです。

「財を遺すは下、仕事を遺すは中、人を遺す（のこす）を上とする」明治から昭和初期にかけて活躍した政治家、後藤新平の名言です。これは、野村監督が大切にしてきた言葉です。私はこれからも人を残すべく、自分の学びを止めず、自分のできる目の前のことを精一杯していきたいと思います。そして、私はこの地球をご機嫌に楽しく、共感できる方たちと一緒に感動しながら生きていきたいと思います。

最後に、私にゴルフ授業へのきっかけと執筆の機会を与えて下さった至学館大学仲立貴教授に感謝申し上げます。そして、ゴルフ授業をサポートしてくださっている、竹下俊一副学長、後藤英之教授、河野清司准教授、久林直美教授、山根真紀教授、岡本恵プロ、井戸田圭子ティーチングプロに心より感謝申し上げます。



2021 年 8 月 3 日号 週刊ゴルフダイジェスト掲載

初心者のゴルフ授業におけるクラブ選択とプレー進行の関連性

：男女学生の比較分析

日本大学 沖 和磨

芝浦工業大学 前田 総太郎

1. はじめに

ゴルフは約 580 校もの大学で体育の授業として導入されている（北，2015）。大学におけるゴルフの授業は，学内のドライビングレンジやグラウンド等でのショット練習が主として展開され，一部の大学では，夏季および春季休暇中の集中授業としてラウンドも実施される。ラウンドの経験は，受講生が生涯スポーツとしてゴルフを開始することの敷居を下げることはもちろん，身体的な運動能力の向上，ルールやマナー，エチケットといった社会性を学ぶ上でも重要な役割を担う。一方で，授業として実際にラウンドを行う際，特に初心者学生にとってスムーズなプレー進行は大きな課題となる。そのようなスロープレーの主な原因として，経験不足および技術的な未熟さに加え，ライの判断能力や適切なクラブ選択の知識が不足していることが挙げられる。具体的には，ライの判断ができず，的確なクラブ選択ができないことで，空振りやチョロを主としたミスショットの発生率が高くなり，進行が遅くなる。したがって，授業でラウンドを実施する際には，スロープレーの主要因となる経験不足および技術的な未熟さ，ライの判断能力，適切なクラブ選択の知識を補う対策を講じる必要がある。

これらの指導を行う上で，性差は考慮しなければならない大きな要因の 1 つである。これまでの研究において，心肺機能や筋量などの身体組成が男女において生物学的に異なるため，発揮されるスポーツパフォーマンスも異なることが報告されており（Hunter et al., 2023），ゴルフにおいても筋力や体力といった性差がプレーに与える影響は大きい。特に，ボールの飛距離に関する男女間の差は顕著であり，この違いがクラブ選択やプレー進行の効率性に直接的な影響を与えると考えられる。しかしながら，性差を考慮に入れた具体的なクラブ選択指導が初心者のラウンド進行にどのような影響を与えるかについて，これまで十分に検討されていないのが現状である。

本調査では，大学のゴルフ授業におけるラウンドプレーにおいて，初心者の男女学生がより効率的にプレーを進行するためのクラブ選択について検討することを目的とする。具体的には，男子学生は体格・筋力を活かしてセカンドショット以降でユーティリティまたはアイアンを多用することでミスの確率を減らし，進行をスムーズにできるという仮説を立てる。一方，女子学生は飛距離が出にくい特性を考慮し，セカンドショット以降でフェ

アウェイウッドを多用することでミスをしてでも飛距離を稼ぐことができ、効率的に進行できるという仮説を検証する。これらの仮説に基づき、ラウンド実習における男女別のクラブ使用状況とプレー進行速度の関係を分析し、性差を考慮した効果的な指導法の確立に貢献することを目指す。

2. 方法

対象は、ある大学の理工学部において 2025 年度ゴルフ実習に参加した学生のうち、ゴルフ初心者の男子学生 6 名と女子学生 2 名とした。男子学生 6 名のうち、4 名は野球経験者であった。他の参加者はスポーツ経験が少なかった。

実習は、令和 7 年 8 月 25 日から 5 日間連続で実施された。実施内容は、初日と 2 日目が練習場での打撃練習（アプローチおよびパターを含む）を行い、3 日目と 5 日目に本コースのラウンド、4 日目にショートコースのラウンドを実施した。ラウンドの際には、男子学生 6 名を 2 名ずつに分け、それぞれに教員を 1 名ずつ配置した。また、女子学生 2 名にも教員 1 名を配置した。全対象学生は大学から貸与されたゴルフクラブを使用し、クラブセットは男子学生が 1W, 4W, UT, 5I – PW, SW, PT の 11 本、女子学生が 1W, 4W, UT, 7I, 9I, PW, SW, PT の 8 本で構成された。参加学生は練習場での打撃練習において、ウッドやアイアン、ウェッジ、パターを使用して、ショット（アプローチを含む）やパッティングの練習を行った。そして、3 日目から 5 日目のラウンドにおいて、学生はショットの際に同伴教員の助言を基にクラブを選択し、ショットを行った。そのショットの結果からクラブ選択の妥当性について検討した。

3. 結果

男子学生は、ラウンドを行った 3 日間で共通してロングおよびミドルホールにおけるティーショットで多くの場合にはドライバーを選択するが、OB やペナルティになるショットやチョロが多かった。一方で、セカンドショット以降では、UT やアイアンを使用して狙い通りのショットを打つことができる確率が比較的高く、特にラウンドの最終日や野球経験者においては顕著にその傾向が強くみられた。

女子学生は、ドライバーを使用したティーショットやフェアウェイウッドを使用したセカンド以降のショットにおいて、ミスをしてでも OB などの大きなミスにはならず効率的に飛距離を稼いでいた。一方で、アイアンを使用したショットは、ウッドを使用した時と比較して、ミスの確率に変化がなく、飛距離のロスが目立った。

4. 考察

本調査の結果から、男子学生はティーショットでドライバーを使用した場合にミスが多

く見られた一方で、セカンドショット以降ではユーティリティやアイアンの使用によってショットの安定性が高まる傾向が明らかになった。この結果は、本調査の仮説である「男子学生はユーティリティまたはアイアンを多用することでミスの確率が減り進行をスムーズにできる」という点を支持するものである。この傾向が、特に野球経験者において顕著に見られた背景について、野球やゴルフといった球技では、共通してスイング動作における体幹の回旋運動や腕の振り抜きが重要となる。野球経験者はこれらの動作に慣れているため、シャフトの長さが短く、方向性をコントロールしやすいユーティリティやアイアンを使用してクラブヘッドとボールを的確にミートさせることにスムーズに適応したと考えられる。加えて、男子学生は筋力や持久力などの体力要素が女子学生と比較して優位にある場合が多く、ダフリなどのミスショットをしても飛距離のロスが少ない。一方で、ドライバーでのミスショットは、初心者が自身の筋力や飛距離への期待から最もシャフトが長くコントロールが難しいクラブで無理なスイングを試みた結果であると推察される。したがって、男子学生への指導においては安易にドライバーでのフルショットを推奨するのではなく、ドライバーでのハーフショットやティーショットでも安定性の高いユーティリティやアイアンを使用させ、フェアウェイをキープすることの重要性を伝えることがラウンド全体の進行をスムーズにする上で効果的であると言える。

女子学生の結果は、フェアウェイウッドを使用したショットがアイアンと比較してミスショット時の飛距離ロスを抑え、効率的な進行に繋がるという仮説を裏付けるものとなった。これは、女子学生が一般的に男子学生よりも筋力が劣るため、アイアンで十分な飛距離を出すことが難しく、逆にフェアウェイウッドの大きなヘッドと低い重心が地面からボールを打つ際のミスヒットに対する寛容性を高めたためと考えられる。また、ドライバーやフェアウェイウッドでミスをして OB などの大きなトラブルにならなかった点は、飛距離が出ない代わりに方向性が比較的安定していたことを示している。女子学生の場合には、無理に飛距離を稼ごうとしないことが結果的に大きなミスに繋がるリスクを軽減したと考えられる。以上のことから、女子学生への指導においては飛距離を効率的に稼ぐためのクラブとして、積極的にフェアウェイウッドの活用を推奨することがラウンド進行の効率化に貢献すると言える。アイアンの練習は不可欠であるものの、実戦的なラウンドにおいてはフェアウェイウッドを有効活用することで技術的な未熟さと体力差を補うことができる。

以上のように大学のゴルフ授業において、初心者の男女学生がスムーズにラウンドを進めるためには性差を考慮したクラブ選択の指導が効果的であることが示唆された。具体的には、男子学生にはドライバーよりもユーティリティやアイアンを推奨し、フェアウェイをキープする重要性を伝えること、女子学生にはフェアウェイウッドを積極的に活用させることでミスショット時の飛距離ロスを抑え、効率的なプレーを促すことができる。

【参考・引用文献】

- ・ 北 (2015)「ゴルフ教育研究」の創刊にあたり． ゴルフ教育研究 1(1): 1
- ・ Hunter SK, S Angadi S, Bhargava A, Harper J, Hirschberg AL, D Levine B, L Moreau K, J Nokoff N, Stachenfeld NS, Bermon S (2023) The Biological Basis of Sex Differences in Athletic Performance: Consensus Statement for the American College of Sports Medicine. Med Sci Sports Exerc 55(12): 2328-2360

全国大学ゴルフ指導者研究会第 13 号編集委員会にて、「ゴルフ授業、ゴルフ指導について研究会会員の考えをぶつけ合う場が不足しており、本誌をその場にしては」との意見が賛同され、本研究会のあり方を加えて、募集することになりました。今回は、初回ということもあり、研究会全会員ではなく、数名の先生に下記提案を行い、執筆いただきました。編集委員会は、今後も本企画を継続していきたいと考えております。研究会会員の皆様には、批評、批判、賛同等の意見や新たな視点の提示を含め、是非、自らの見解を本誌にぶつけていただきたいと願っております。また、本章名を「ゴルフ指導者研究雑考」といたしましたが、より良い名称の提案もお願いいたします。編集委員会から個人にお願いすることもあるかもしれませんが、何卒よろしくお願いいたします。

下記に関する論文、報告、紀行文、書評等を募集いたします。

1. ゴルフ指導を考える

a. 体験

大学授業、個人的なコミュニティーでの指導、スクールなどで受講した指導等の経験からゴルフ指導について個人的に思うこと。

b. 理論

ゴルフ技術論を含むゴルフ指導の著書、雑誌、youtube, web 等について個人的に思うこと。

2. ゴルフ授業の意義

教材としてゴルフを実践する意義について、個人的に思うこと。

3. ゴルフ研究会について思うこと（改革案、進むべき道等）

個人的な思いでかまいませんので、どしどし応募ください。よろしくお願いいたします。

III. 令和 6 年度全国大学ゴルフ指導者研究会

第 1 回東海北陸甲信越支部研修会報告

1. 開催概要

1) 目的：

大学におけるゴルフ教育の充実と発展に寄与するため、研修会を開催しゴルフ技術、理論、指導法について研究討議を行い、技術力と指導力の向上を図る。

2) 主催・後援：

全国大学ゴルフ指導者研究会主催、全国大学体育連合後援

3) 期間・会場・参加人数：

期間：2024 年 9 月 16 日（月）～ 9 月 17 日（火）（1 泊 2 日間）

会場：小杉カントリークラブ 〒 939-0321 富山県射水市浄土寺 1

<https://www.kosugi.cc/>

宿舎：富山駅近隣ビジネスホテル（各自手配）

参加人数：13 名（会員 8 名、非会員 5 名）

4) 研修会費用：

参加費：会員 4,000 円、非会員 5,000 円、

ゴルフ場使用料：16 日（祝日）14,200 円 17 日（平日）9,300 円

5) 研修会概要：

1 日目（9/16）：

現地集合後、打席練習、アプローチ練習、パット練習の後、18 H ラウンド

情報交換会・懇親会：しゅん家 富山県富山市新富町 2-2-15

2 日目（9/17）

現地集合後、打席練習、アプローチ練習、パット練習の後、コンペ形式にて 18 H ラウンド、表彰式

2. 総括

本会の初の支部研修会が、東海北陸甲信越支部研修会として、富山県射水市の小杉カントリークラブにて行われました。小杉カントリークラブは、1990 年に開場し、2024 年で 36 年目になる 27 ホールズの県内唯一のパブリックゴルフ場です。2017 年には、JLPGA（日本女子プロゴルフ協会）の最終プロテストが行われ、現在トッププロとして活躍中の、勝みなみ選手や、小祝さくら選手が合格者として名を連ねています。さらに翌

2018年には、第51回日本女子プロゴルフ選手権大会コニカミノルタ杯が行われ、コースとしての評価が高まることとなりました。

研修は、両日とも晴天に恵まれましたが、少々9月にしては暑すぎる陽気の中で行われました。会員の中には3月の研修に参加した面々が多く、傾斜からのショットや、パターのように打つアプローチを実践で試しながらのラウンドとなったようでした。また今回は、北陸地区から4名、東海地区から1名の非会員の方々も参加し、交流をすることができました。

来年度（2025年度）も同会場で研修会を行う予定となりました。



南コース6番 富山湾に見立てた池越えのショートホール

第 29 回研修会報告

1. 開催概要

1) 日時：2025 年 3 月 3 日（火）～ 3 月 5 日（木）（2 泊 3 日間）

2) 場所：那須野が原カントリークラブ

〒 324-0012 栃木県大田原市南金丸 2025

TEL：0287-23-1101

ゴールドヒル倶楽部

〒 324-0018 栃木県大田原市上奥澤 622-106

TEL：0287-23-7890

3) 参加者：会員 9 名 / 非会員 3 名

4) スケジュール

	3 月 3 日	3 月 4 日	3 月 5 日
早朝		6:00 個別練習	
		7:30 朝食	
9:00～15:00	11:00 受付 12:00 開講式 13:00 実技研修 1 コース A：(経験者のみ) ハーフラウンド コース B：プロによる打撃練習指導	ラウンド・レッスン グループで昼食	総合ラウンド (コンペ形式) グループで昼食
15:00～16:30	実技研修 2 (グリーン周り指導法) テーマ：100 ヤード以内のアプローチ		15:30 開校式
	18:00 夕食		
19:00～21:00	講義研修 (中村プロ) テーマ：ゴルフと人づくり、サブ：最新の女子プロトーナメントの実際	研究会総会 情報交換会	
22:00	就寝 就寝		

※ 3 月 3 日は悪天候のため、実技研修 1・2 は中止となり、近隣の打撃練習場にて講師によるスイング作りのためのレッスンに変更し、3 月 5 日は降雪のため中止となった。

2. 研修内容

講師：長谷川哲也コーチ（1977 生まれ：ゴルフツアープロコーチ、TPI Certified Level 1、USGTF ゴルフインストラクター）

1) 3 月 3 日（月）13:30～16:00 実技研修 1 実技研修 2

悪天候により、実技研修 1・2 は、近隣の打撃練習場にて実施された。

2) 3 月 3 日（月）19:00～20:30 講義研修（4 階会議室）

テーマ「ゴルフの楽しさを長く・楽しく・健康的に続けるためのスイングづくり」



コーチ紹介



練習場での打撃練習

■ ゴルフの実情

2000 年以降、日本のゴルフ人口は減少傾向にあり、2000 年の約 1,300 万人から 2023 年には約 770 万人まで減少した。特に若年層の参加率が低下する一方、60 代以上の高齢層は安定している。ゴルフ場数も微減しており、約 2,400 場～約 2,200 場前後を推移。ゴルフ練習場の市場規模も縮小し、2000 年の約 3,000 億円 2023 年には約 1,230 億円に減少した。

一方、都市部を中心に室内練習場が増加しており、天候に左右されず、弾道測定器などを活用した科学的トレーニングが可能な点が支持されている。長谷川氏のようなプロコーチによる施設は、個別・最適化された指導を提供し、シニア層や初心者層のニーズに応えている。

■ 持続可能なスイング（サステナブル・スイング）づくり

サステナブル・スイングとは、身体への過度な負荷を避けながら、長期的に安定してゴルフを楽しむためのスイング設計を指す。年齢や体力、柔軟性など個々の身体特性に応じてスイングを最適化することで、ケガの予防や疲労の軽減を図り、再現性の高い動作を習得することが目的である。

長谷川哲也氏は、スイングの本質に立ち返り、道具であるクラブの正しい使い方に基づいた指導を提案している。特に「片手スイング」によって、誰もが自然にオンプレーンな軌道を体得できる点を重視し、クラブの動きに身体を合わせるという原理に基づいている。また「フェイスコントロール」では、クラブの重心が開きやすい特性を理解し、クラブを“引っ張って使う”ことでフェイスの安定性を高める。振り子のようなクラブの自然な運動を活かし、「クラブが主、身体は従」という考え方により、力みによるミスを防ぎ、再現性の高いスイングを実現する。これらの指導は、身体能力に依存せず、道具の特性と物

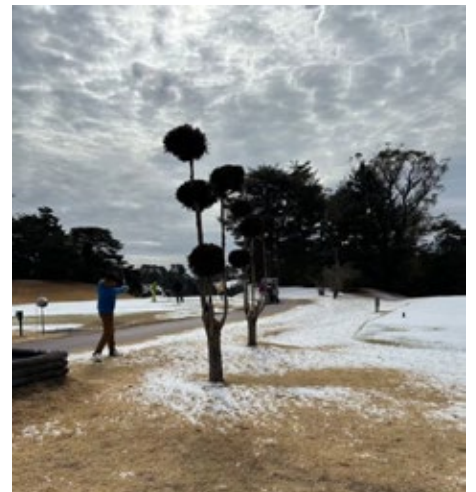


講義をする長谷川コーチ

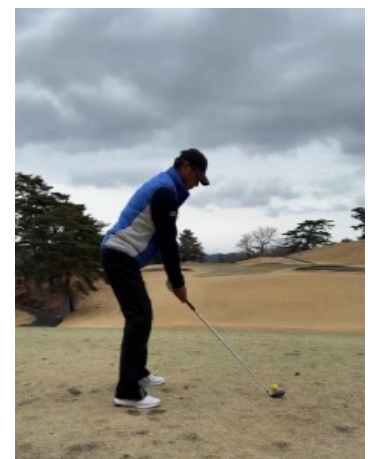
理原則に沿った合理的なスイングづくりを可能にするものであり、年齢や経験を問わず幅広い層に有効である。

3) 3月4日(火) 実技研修 ラウンドレッスン (18H)

前日の打撃練習や講義内容を踏まえ、実践的な場面での理解を深めることを目的とした。ラウンド中は長谷川哲也コーチが各組に3ホールずつ帯同し、アドレス、エイミング、スイングリズム、コースマネジメントなど、実践に即した指導を行ってくださった。特に「クラブを引っ張って使う」という原理に基づいたアドバイスは効果的であり、クラブの重心を意識することでミート率が向上し、安定したドライバーショットにつながった。スイングの主役はクラブであり、身体はそれに従うという考え方は、今後の学生指導においても有効であると感じた。理論と実践を結びつける貴重な機会となった。



長谷川コーチ 後方より観察



長谷川コーチ スタンス修正

4) 3月5日(水) 実技研修 総合研修ラウンド(18H)
降雪のため中止



スタートホール



参加者集合写真 2025.3.4.

IV. 全国大学ゴルフ指導者研究会総会資料

2024 年度事業報告

《会議》

1.臨時理事会

日時 2024 年 4 月 22 日（月）19 時～20 時

場所 zoom Web 会議

審議事項

1. 役割の検討・確定（資料：2023 年度総会議事録）
2. 事務局について

2.第 1 回理事会

日時：2024 年 6 月 17 日（月）18 時～19 時 30 分

場所：Zoom Web 会議

出席者：矢崎副会長、江口常任理事（事務局長）、佐伯理事、佐古理事、山根理事、金田監事、仲監事

欠席者：鈴木会長、中島理事長、菅生理事、西村理事

審議事項：

1. 役員の任期について
2. 2024 年度の研修会開催について
3. 支部研修会の開催について
4. テキスト作成について

報告事項：

5. 令和 5 年度研修会収支決算報告
6. 令和 5 年度研究会収支決算報告
7. 令和 6 年度研究会予算及び事業執行状況報告
8. 研究会誌 14 号発刊について
9. その他

3.第 2 回理事会

日 時：令和 6 年 9 月 16 日（月）19 時 10 分～19 時 40 分

場 所：しゅん家 対面および Zoom Web 会議

出席者：鈴木会長、矢崎副会長、中島理事長、江口常任理事（事務局長）、佐伯理事、佐古理事、西村理事、山根理事、金田監事、仲監事

欠席者：菅生理事

議 題：1) 令和 6 年度第 29 回全国大学ゴルフ指導者研修会について

2) 令和 6 年度予算及び事業執行状況報告

3) 令和 7 年度予算案・事業案の確認（予算案は、第 3 回理事会での審議とした）

4)その他

4.第3回理事会

日 時：令和6年11月29日（月）19時00分～20時00分

場 所：Zoom Web 会議

出席者：鈴木会長、矢崎副会長、中島理事長、江口常任理事（事務局長）、佐伯理事、佐古理事、
西村理事、山根理事、金田監事、仲監事

欠席者：菅生理事

議 題：1) 令和6年度第29回全国大学ゴルフ指導者研修会について

2) 令和6年度予算及び事業執行状況報告

3) 令和7年度予算案・事業案の確認（予算案は、第3回理事会での審議とした）

4) その他

5. 第4回理事会

日 時：令和7年2月7日（月）18時00分～19時30分

場 所：Zoom Web 会議

出席者：中島理事長、江口常任理事（事務局長）、佐伯理事、佐古理事、西村理事、山根理事
金田監事、仲監事

欠席者：鈴木会長、矢崎副会長、菅生理事、西村理事

議 題：1) 役員改選案について

2) 令和6年度第29回全国大学ゴルフ指導者研修会について

3) 令和6年度予算及び事業執行状況報告

4) 令和7年度予算案・事業案の確認

5) その他

6. 令和6年度全国大学ゴルフ指導者研究会総会

日 時：令和7年3月4日（火）

場 所：那須野が原カントリークラブ ベルビューホテル会議室

出席者：鈴木会長、矢崎副会長、中島理事長、江口常任理事（事務局長）、佐伯理事、佐古理事、
山根理事、福島会員、沖会員、友寄会員

欠席者 西村理事、金田監事、仲監事

議 題：1) 令和5年度決算報告

2) 令和6年度決算および事業執行状況報告

3) 役員改選

4) 令和7年度事業案

5) 令和7年度予算案

6) その他

《行事》

1. 令和6年度 東海北陸甲信越支部研修会

日 時：令和6年9月16日～17日

場 所：小杉カントリークラブ

参加者：12名

2. 令和6年度 全国大学ゴルフ指導者研究会

日 時：令和7年3月3日～5日

場 所：那須野が原カントリークラブ

参加者：13名

指導者：長谷川哲也氏（ゴルフツアープロコーチ、TPI Certified Level 1、USGTF ゴルフインストラクター）

1. 公認指導者認定

1) 日 時：令和6年9月16日～17日(希望者無しの為、未実施)

場 所：小杉カントリークラブ

2) 日 時：令和7年3月3日～5日(希望者無しの為、未実施)

場 所：那須野が原カントリークラブ

《機関誌の発行》

1. 全国大学ゴルフ指導者研究第14号ウェブ版の発刊

日時：令和6年11月

全国大学ゴルフ指導者研究会 2024年度決算

収入の部

(円)

項目	2023年度決算額	2024年度予算額	2024年度決算額	備考
年会費	33,000	70,000	36,000	12名
助成金・寄付金	-	20,000	25,000	プロツアー様（2024年度）、大澤先生5000円
利子	-	-	12	
研修会残金	6,310	-	-	
研修会参加費（9月）	-	48,000	43,000	参加費4000円7名、非会員5000円3名
研修会参加費（3月）	-	60,000	69,000	参加費5000円11名、非会員7000円2名
研修会諸経費		80,600	71,400	諸経費6200円10名、4700円2名
当期収入合計	39,310	90,000	244,412	
前年度繰越金	54,989	89,685	89,685	
収入合計	94,299	179,685	334,097	

支出の部

(円)

項目	2023年度決算	2024年度予算額	2024年度決算額	備考
研究会誌作成費	-	-	-	
通信費	-	-	-	
研修会開催費（9月）	-	48,000	43,433	
研修会開催費（3月）	-	60,000	81,250	講師謝礼80000円、講師昼食代1250円
研修会諸経費			81,432	
交通費	-	-	-	
会議費	-	-	-	
広報費	4,064	2,493	4,473	2493円（ドメイン）、1980円（レンタルサーバ）
借入金返済	-	-	-	
雑費	550	-	2,326	110円(会費領収書送料)、586円（領収書）、1,320円（弔電）、110円（プロツアーへの領収書送料）、200円（振込料）
当期支出合計	4,614	110,493	212,914	
次年度繰越金	89,685	69,192	121,183	
支出合計	94,299	179,685	334,097	

会計帳簿、証拠書類を監査した結果、上記、収支決算書が相違ないことを確認いたしましたので報告します。

2025年 4月 1日

監事

沖 和磨



福島 洋樹



全国大学ゴルフ指導者研究会 2025年度予算（案）

収入の部

（円）

項目	2024年度決算額	2025年度予算額	備考
年会費	36,000	36,000	12名
助成金・寄付金	20,000	20,000	プロツアー様
利子	-	-	
研修会残金	-	-	
研修会参加費（9月）	43,000	48,000	参加費4000円12名参加
研修会参加費（3月）	69,000	60,000	参加費5000円12名参加
当期収入合計	168,000	131,600	
前年度繰越金	89,685	130,329	
収入合計	257,685	261,929	

支出の部

（円）

項目	2024年度決算額	2025年度予算額	備考
研究会誌作成費	-	-	
通信費	-	-	
研修会開催費（9月）	43,433	50,000	表彰式、コンペ景品等
研修会開催費（3月）	80,000	90,000	講師謝礼、コンペ景品等
交通費	-	-	
会議費	-	-	
広報費	2,493	3,000	2493（ドメイン）、1571（サーバー）等
借入金返済	-		
雑費	1,430	2,000	硬貨引き出し料110、振込440等
当期支出合計	127,356	145,000	
次年度繰越金	130,329	116,929	
支出合計	257,685	261,929	

V. 会則・会員名簿

全国大学ゴルフ指導者研究会会則

[総則]

第1条 本会を全国大学ゴルフ指導者研究会と称する。

第2条 本会は、大学ゴルフ指導者の養成、並びに研究と研鑽を支援し、ゴルフを通して、学生のよりよき発達に寄与する事を目的とする。

第3条 本会の本部は、原則として事務局長（常務理事）の所属機関に置く。

[事業]

第4条 本会の目的を達成するため、次の事業を行う。

2 研究、および研修会の開催。

3 機関誌の刊行。

4 公認指導者の認定

5 会員の研究に資する情報の収集と紹介。

6 支部、および研究グループの育成。

7 その他本会の目的を達成するために必要な事業。

[会員]

第5条 会員の種類を正会員と賛助会員の2種類とする。

2 正会員は、大学ゴルフ指導者、または本会の趣旨に賛同し共に活動しようとする者で、会費を納入した者。

3 賛助会員は、本会の趣旨に賛同し、その育成後援に協力する者で、年会費を納入した者。

第6条 入会・退会は、次のように規定する。

2 本会の趣旨に賛同し入会を希望する者は、正会員1名の推薦を受けて所定用紙により、事務局もしくは役員に申込みを行うとともに、会費を納入する。

3 退会を希望する者は、事務局もしくは役員に退会の申し出をする。また、会費を2年間納入しない者は退会したものとする。

[役員]

第7条 本会の事業を運営するために、会員の中から、会長（1名）、副会長（若干名）、理事長（1名）、副理事長（1名）、常務理事（若干名）、理事（若干名）、監事（若干名）を総会において選出する。

第8条 会長は、本会を代表し会務を総括する。副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、これを代行する。理事長は、理事会会務を総括する。副理事長は、理事長を補佐し、理事長に事故あるときは、これを代行する。常務理事は、運営、その他の日常の会務を執行する。理事は、会務を執行する。監事は、会計を監査する。

第9条 役員の任期は3年とし、再任を妨げない。

第10条 本会に名誉顧問・名誉会員を置くことができる。2名誉顧問・名誉会員は役員会で推薦し、総会において承認する。

[総会、役員会及び理事会]

第 11 条 本会に総会を置く。

2 総会は、本会の最高決議機関であり、会長が招集し、出席会員をもって構成する。

3 総会は毎年 1 回開催し、役員の選出及び本会の運営に関する重要事項を審議する。

4 総会での審議事項は、出席会員の 3 分の 2 以上の賛成により決議する。

第 12 条 本会に役員会を置く。

2 役員会は会長が招集し、会長、副会長、理事長、副理事長、常務理事（事務局長、副事務局長）、理事、監事をもって構成する。

3 前項の規程にかかわらず、会長が必要と認めたときは、役員会にその他の会員を加えることができる。

4 本会の事業・運営に関する重要事項を審議する。

第 13 条 本会に理事会を置く。

2 理事会は理事長が招集し、理事長、副理事長、常務理事、及び理事長が必要と認めた理事、監事、正会員で構成する。

3 役員会の方針に基づき日常の会務を執行する。

[事務局]

第 14 条 本会に事務局を置き、常務理事である事務局長、副事務局長を中心に日常業務を執行する。

2 事務局は事務局長の所属機関に、原則として 3 年間設置する。

3 事務局住所は、専務理事所属大学気付とする。

[支部・専門委員会]

第 15 条 本会の業務を推進するために、支部・専門委員会を置くことができる。

[会計]

第 16 条 本会の経費は、会費、寄付及びその他の収入をもって支弁する。

2 会員の年会費は 3,000 円とする。

3 賛助会員の年会費は、1 口 1 万円とし、2 口以上とする。

第 17 条 本会の会計年度は、毎年 4 月 1 日より翌年 3 月 31 日とし、会費の納入期限は 4 月 1 日から 9 月 30 日迄とする。

[賛助会員に関する細則]

第 18 条 本会は、賛助会員に次の特典を与えるものとする。

第 19 条 本会が刊行する機関誌の無償送付と、本会が指定する広告の無償掲載することができる。

2 本会が主催する研修会、主たる会議などにオブザーバーとして参加することができる。

3 会員の関連する学会、研究会、講習会への推薦等の便宜を図ることができる。

[広告掲載規定に関する細則]

第 20 条 広告掲載に関しては、別紙の通り定める。

附 則

1 この会則は、平成 15 年 8 月 17 日より施行する。

2 この会則は、平成 22 年 8 月 25 日より施行する。

3 この会則は、平成 23 年 8 月 21 日より施行する。

4 この会則は、令和 3 年 3 月 15 日より施行する。

5 この会則は、令和 7 年 3 月 15 日より施行する。

会員名簿

2025 年 3 月現在

No.	氏名	所属大学	役職
1	大澤 啓藏	元亜細亜大学	名誉顧問
2	辻井 義弘	元摂南大学	名誉顧問
3	加藤 史夫	元日本大学	名誉顧問
4	柴田 一男	元大同大学	名誉顧問
5	竹内 暢子	元千葉敬愛短期大学	名誉顧問
6	西藤 宏司	元筑波大学	名誉顧問
7	早田 卓次	日本大学名誉教授	名誉顧問
8	松田 一如	日本歯科大学名誉教授	名誉顧問
9	光永 吉輝	駒澤大学名誉教授	名誉顧問
10	三幣 晴三	駒澤大学名誉教授	名誉顧問
11	積山 敬経	大阪工業大学	名誉顧問
12	鈴木 昭彦	高崎商科大学	名誉顧問
13	矢崎 弥	元東京理科大	会長
14	西村 次郎	岡山理科大学	副会長
15	山根 真紀	日本福祉大学	副会長
16	江口 潤	産業能率大学	理事長
17	佐伯 聡史	富山大学	専務理事
18	中島 弘毅	松本大学	理事
19	佐古 隆之	日本女子大学	理事
20	金田 晃一	千葉工業大学	理事
21	仲 立貴	至学館大学	理事
22	藤井 健平	岡山理科大学	理事
23	沖 和磨	日本大学理工学部	理事
24	福島 洋樹	富山大学	理事
25	末次 美樹	駒澤大学	理事
26	友寄 隆哉	産業能率大学	会員

出張・旅行には レンタルクラブが 便利です!!

1日7,700円~
(往復送料・税込)



話題の
新製品

気になる
クラブ

試打クラブ レンタル サービス

貸出期間
3泊4日



スマホでも
ご予約OK!

ご予約はWEBサイトから!

www.club-station.com

クラブステーション

検索

20社以上 海外・国内
有名メーカー取扱あり!

PING

TaylorMade

Callaway

DUNLOP

PRGR

etc...

編 集 委 員

委員長 山根 真紀

委 員 金田 晃一
仲 立貴

全国大学ゴルフ指導者研究会 第 15 号

発行日 令和 7 年 11 月 1 日

発行者 矢崎 弥

発行所 全国大学ゴルフ指導者研究会

〒 930-8555 富山県富山市五福 3190 富山大学教育学部 佐伯研究室